



道南畜産共進会 乳用牛の部 経産牛 最高位受賞

『インマヌエル クリント アツドウツド』

出陳者 山崎良介さん

J A北海道中央会・ホクレン 役員海外農業研修

今回、J A北海道中央会・ホクレン主催の海外視察研修に、理事である小田島親守組合長が参加しました。7月17日から25日の9日間の日程でスウェーデン・ノルウェー・デンマークの3カ国、総勢23名での研修でした。自国の農業の持続的な発展と食料安全保障の方向性を堅持している欧州諸国の農業情勢を研修し、地域農業振興の一助とする事を目的に研修を実施しました。

スウェーデンでは、独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）の現地通信員から、スウェーデンの農業情勢、政治経済、社会保障制度や日本との貿易概要などの説明を受けました。ジェトロは、2003年に設立され、日本の経済・社会の更なる発展に貢献することを目指し、日本企業の海外展開支援、日本の通商政策への貢献、開発途上国の支援と研究を行っています。

スウェーデンの農業は、気象条件等から北部や内陸部では酪農、中部地域では穀物、南部地域では集約的な畑作と養豚が盛ん。農地は303万ha。また林業と結びついており、大部分の農家が林地を保有し、冬期の重要な就業機会の場となっています。主要農産物は、小麦、てん菜、生乳（牛）。

現在、猛暑や干ばつの影響で、作物の収穫量の減少や、牧草の生育不良による牛乳の品質低下、家畜用飼料の不足が生じております。

ノルウェーでは、グリーネルロッカ地区にあるノルウェー最大の食市場「マートハーレンオスロ」を視察しました。市場では、新鮮な獲れたての野菜や魚、チーズ、肉、パンなど地産地消をコンセプトとした種類豊富な食材が販売されていました。

デンマークでは、DSV種子デンマーク社を訪問しました。1921年に設立し、欧州を代表する専門会社として国内の需要に合わせた新品種の開発を行っており、また農家への技術指導も行なわれています。種子販売は、牧草種子・クローバー種子を始め小麦・菜種など流通業者を通しての販売、農家への直接販売も行っています。

今回視察研修したスウェーデン・ノルウェー・デンマークは、農業支援を惜しまない自国の食糧政策と農業政策の一貫性を感じ、我が国の農業政策の根幹の必要性を感じました。



「第32回」A夏祭り」が開催されました



8月3日、第32回を迎えた毎年恒例のJA夏祭りが行われました。当日は晴天に恵まれ、絶好のお祭り日和で、組合員のほか、町内外から多くの皆様が訪れ、会場は大いに賑わっていました。

豪華景品が目白押しのビンゴ大会、ゲストの佐久間彩加さんや古川亜美さんによる美声と歌唱力で来場者に大いに楽しんでもいただくことが出来ました。

毎年、組合員や町民の皆様へ日頃JA事業をご愛顧頂いている事に対し、感謝の気持ちで祭りを開催しております。これからも地域に貢献できるよう事業を展開して参りますので今後とも宜しくお願い致します。

今金男しゃく坪掘調査を実施



今金町畑作部会は8月23日、今金男しゃくの坪掘調査を行いました。この「坪掘調査」は町内全域の今金男しゃくの収穫量や規格品がどの程度あるのかを把握し、効果的な販売戦略を立てて有利販売に繋げられるように行う重要な調査です。降雨量が多い時期もあり品質面に心配もありましたが、全体的に収量・品質共に良い調査結果となりました。

檜山北部広域大根・人参部会 合同目揃え会を実施



8月4日、檜山北部広域大根部会と檜山北部人参部会が合同で、現地研修会・目揃え会を行いました。現地研修会では、大根1圃場、人参2圃場を視察し、現在の生育状況や収穫機械の実演を行いました。目揃え会では、市場より販売情勢の報告、普及センタより病害虫防除についての情報提供が行われました。

大根作付に興味のある方は、農業経営課 成田までお願い致します。

道南畜産共進会 乳用牛の部が開催されました



第64回道南畜産共進会（ホクレン主催）乳用牛の部が8月22日に八雲町畜産共進会会場で行われました。

審査員にはジェネティクス北海道十勝北見事業所次長の吉田潤嗣氏が努め、渡島・檜山管内から出陳された39頭（内、今金から8頭）の乳用牛が体つきや骨格、乳房の張りなどを基準に審査を競いました。

審査は厳格公正に行われ、経産牛において、「インマヌエルクリントアツドウッド」（出陳者・山崎良介さん）が最高位に、未經産牛で「クリサンスシャルブラッドドアーズ」（出陳者・菊地章太さん）が準最高位を受賞しました。

各部別1等入賞結果（今金町のみ）

部 別	名 号	出 陳 者
第2部	クリサンス シャル ブラッド ドアーズ	菊地 章太
第9部	インマヌエル スモーキン サム	山崎 良介
第12部	インマヌエル クリント アツドウッド	山崎 良介

水稻捻実調査を行いました



8月27日、檜山農業改良普及センター北部支所において水稻の捻実調査が行われました。今金・北檜山・若松の3JAが事前に採取した稲穂のサンプルを持ち寄り、普及センターや共済組合の職員と合同で調査を行いました。

今回の調査の結果は、不稔歩合はやや高い傾向でしたが、出来秋に期待しましょう！

ホクレンとの意見交換「一日ホクレン」開催



8月24日、ホクレン函館支所大友和雄支所長を始め10名と、小田島親守組合長を始め役員、各部課長合わせて38名が参加し、「一日ホクレン」が行われました。

「一日ホクレン」とは、ホクレンと農協の連携強化を図る為の意見交換の場で、今回はホクレン函館支所の各課より業務の取り組みの内容について説明があり、活発な交換が行われました。

理事会報告

第11回理事会（平成30年8月24日）

◆報告事項

1. 組合員の加入、脱退の状況について
2. 第2四半期部門別実績対比について
3. 平成30年度農産物の生育状況について
4. 道南畜産共進会の報告について
5. 燃料、寒冷地手当の支給について
6. 経営定期点検の結果報告について
7. 平成30年度 JA共済コンプライアンス点検結果について
8. 今金秋祭り期間中の業務日程について
9. 平成30年度総会承認による施設計画の実施状況報告について
10. 落雷被害について

◆議決事項

- 議案第1号 平成30年産米のJA独自共計について
- 議案第2号 JA全国監査機構監査に対する回答（案）について
- 議案第3号 コンプライアンス規程の改正について
- 議案第4号 生乳受託販売規程の改正について
- 議案第5号 専務理事の海外出張に伴う日当の支給額について
- 議案第6号 米穀及び雑穀の保管倉庫建設における競争入札業者について
- 議案第7号 理事者への貸付の承認について

9月の営農対策

() は、8月15日作況調査の平年値との遅速日数

今後の農作物管理	
水稲	水稻（遅1日） 8月上～中旬の気温が低く登熟遅延が懸念されますので、状況把握と適切な対応に努めて下さい。 ・収穫・乾燥調整に向けた準備を！ コンバインや乾燥機等の整備・清掃を急ぎましょう。また、二段乾燥を行うための一時貯留方法も検討して下さい。 ・収穫適期の判定は玄米サンプルで！ 収穫期が近づいたら、ほ場単位で平均的な場所から数株を刈取り、1～2日乾燥後、適期判定へ。 ・収穫作業 収穫した生籾は速やかに搬入・乾燥へ。特に刈り始めや気温の高い状況では「ヤケ米」の発生に注意しましょう。コンタミ防止のため、品種が変わる場合は機械の清掃などに注意し、倒伏力所などは別刈りで品質低下を防ぎましょう。 ・乾燥・調整 胴割粒の発生を防ぐために急乾・過乾に注意しましょう。 ①毎時乾減率は0.8%以下に、②一時乾燥は1.8%以下に、③仕上げ水分は14.5～15%に。 乾燥後の放冷は十分に行い、穀温が低下してから籾摺りを。米選・調整は出荷基準に従って適正に進めましょう。 ・収穫後のほ場管理 収穫後は速やかに心土破碎の実施や水の溜まる場所では「溝切り」の実施でほ場の乾燥化を促す。排水の良いほ場では稲ワラの「秋鋤込（スタブルカルチ等による粗耕起）」を行って下さい。ロータリー耕は避けましょう。 ・秋の繁忙期、農作業安全・事故防止に全力を！
小麦	秋まき小麦 ・播種時期が近づいています。播種日・播種量を守ろう。 茎数は多くても、少なくとも多収には結びつきません。 播種適期：9/18～9/24 播種量5～6kg/10a 遅まき：9/25～ 播種量6～7kg/10a （今金アメダス平年値 千粒重39.5gで計算） 播種機の調節をきちんと行った上で、播種しましょう。 ・除草剤について 雑草の種類によって、散布時期や除草剤の種類を決めましょう。特に、イネ科雑草に対しての除草剤は、秋のみの使用となっていますので、散布時期を逃さないように注意が必要です。また、越冬雑草も秋に除草剤処理することにより、効果が高くなります。
馬鈴薯	ばれいしょ（早2日） ・打撲を防ごう！ 収穫物のキズや打撲は品質劣化につながります。これを回避するために、収穫機械の調節・整備、特に緩衝材部分の調整を行いましょう。また、収穫時にコンベヤの回転速度・掘取り刃の深さを調節しましょう。 収穫は茎葉処理後10日以降、ほ場が乾いた晴天の日に行いましょう。寒い日に行くと打撲が多くなります。 ・収穫後のほ場整備に努めましょう。 速やかに次の作物に入れるように、堆肥散布などのほ場の整備を行いましょう。また、収穫後のほ場に残ったイモは拾い上げ、野良生え防止に努めましょう（野良生えは病害虫を増加させる大きな要因です）。
てんさい	てんさい（±0日） ・褐斑病の防除 褐斑病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延します。天気注意到意し、散布間隔があきすぎないように引き続き防除を継続して行いましょう。

今後の農作物管理	
豆類	大豆（早2日） ・圃場に「イヌホオズキ」が生えていませんか？ 大豆圃場に限らず、イヌホオズキが生えている圃場が見られます。収穫時に黄大豆の汚粒発生源となりますので、収穫前に全て抜き取りましょう。 イヌホオズキ（ナス科、1年草） 8～9月に白い花が咲き、実は丸く、熟すと黒くなります。この黒い実が大豆収穫時に汚粒発生源となります。近年はイヌホオズキに特に効果がある除草剤も販売されています。 小豆（遅4日） ・時期を逃さず収穫しましょう 収穫の目安は、 にお積みする場合：熟莢率70～80% コンバイン収穫の場合：熟莢率100%及び子実水分16～18% 収穫遅れは、子実水分の低下による損傷粒の発生・品質低下を招きます。また、脱粒による収穫ロスにもつながります。基本的に茎葉より子実水分を優先し、収穫遅れのないように作業を行いましょう。 豆類 ダイズシストセンチュウの被害が発生した圃場では、次の豆類作付までの間隔をあげる（大豆と小豆の連作も避けましょう）、クローバ類や抵抗性品種を導入するなど、センチュウ密度を減らす対策を検討しましょう。
畜産	牧草（早5日） 飼料用とうもろこし（遅4日） ・残害対策を行いましょう 気温は徐々に下がってきますが、「暑さ」に対する警戒が必要な時期です。 残害が予想されるため、引き続き扇風機で牛体に風を当てたり、トンネル換気等で畜舎内の温度や湿度を下げて牛のストレス低減を図りましょう。 ・本年度産の粗飼料は飼料分析を行い、成分を確認してから飼料給与しましょう。 ・オーチャードグラスの刈取りは、越冬性を低下させ、翌年の茎数や収量に悪影響を及ぼす「刈取り危険帯」（9月下旬～10月下旬）の収穫を避けましょう。（アルファルファの刈取り危険帯は、オーチャードグラスより10日程度早い時期） ・飼料用とうもろこしの適期収穫と調整 圃場で子実熟度を確認し、黄熟期を目標に計画的に収穫しましょう。 切断長は黄熟期で9～12mm程度とし、切断面を鋭利にするためハーベスタの刃研ぎをこまめに行いましょう。
園芸	ブロッコリー 今月も花蕾腐敗病対策として、花蕾形成期（1cm）前後を中心とした防除体系を組みましょう。 また湿潤・低温が続くと「べと病」の発生に留意しましょう。 だいこん・こかぶ 引き続き、コナガ及びアオムシの発生に留意しましょう。系統の違う剤によるローテーション防除を行いましょう。 にんじん 生育後半期の黒葉枯病の発生に留意し、長雨が予想される場合には、早期の防除体系を組みましょう。 また、この時期は収穫前の降雨による「割れ」の発生が多くなります。適期収穫を心がけましょう。 芸 軟白長ネギ 9月に入ると気温も下がり始め、サビ病の発生が心配されます。風雨により葉が傷つくと発生するので注意しましょう。 ミニトマト 9月以降は、生育が緩慢になるとともに肥料、水の必要量も減ってきます。かん水量を調節し、草勢を維持するようにしましょう。 また日照も低下する事から、着色も遅くなりますので、通路マルチ（シルバー）などを利用して、照度確保につとめましょう。

檜山農業改良普及センター 檜山北部支所

TEL 0137-84-5514

FAX 0137-84-5596

E-mail hiho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp

檜山 普及センター



J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

J A北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

J A北海道中央会

11月開催の第29回 J A北海道大会に向けて組合員の声を反映させるため、9月末を期限とする組織討議を実施します。



原案には、前回大会で掲げたJ Aグループの将来ビジョン「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現」に向けて、農業所得増大やサポーター550万人づくりの継続実施などを盛り込むほか、重要性を増す「協同組合の価値と実践」を新たに加えております。

また、各J Aにおける組織討議に加えて、組合員の皆さんから直接ご意見を提出いただけるよう、意見提出様式を公開しておりますので、ご提案を賜りますようお願い申し上げます。



J A北海道信連

8月に、J Aとつや湖等の協力を頂き、小学生の親子を対象とした『旬食力レッジン洞爺湖』を開催しました。じゃがいもの収穫体験、地元産じゃがいもやミニトマト等を使った料理教室、J Aによる講演等を実施し、道産野菜のおいしさや栽培のこだわりなどができました。

参加者には、「食に対する関心が高まり勉強になった」「また参加したい」など好評でした。



ホクレン

北海道産牛肉を炭火焼きで楽しんでもらう「第2回北海道牛肉まつりinさっぽろ」が7月29日から8月1日の4日間、札幌パークホテル駐車場特設会場で開催されました。このうち2日目の30日には「北海道産牛肉応援PR大使」でグルメタレントのアンジェラ佐藤さんが登場。

北海道庁とホクレンの若手職員計5人を相手に「大食い競争」に挑戦し、会場から大きな歓声が上がりました。



J A共済連北海道

8月3日に札幌・共済ホールにて「全道J A・スマサポ大会」が開催され、平成29年度普及活動で優秀な成績を収められたJ A 22名と、スマイルサポーター15名が登壇し表彰されました。

J A共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック（保障点検活動）」の実践を通じて組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めてまいります。



J A北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



～ なくそう死亡事故 ふせこう負傷事故 ～

農作業の現場は日々変化します！

いつでも
どこでも **安全を確認しよう**



農作業事故は、

- ⚠ その防止対策が非常に重要です。
- ⚠ もう一度、機械や施設、現場環境や作業行動の中にある危険を点検してください。
- ⚠ 危険が確認できたら、速やかに改善して農作業事故を防止しましょう！

平成30年 秋の農作業安全運動 展開中！

運動期間 平成30年 9月～10月